

特集

# 女の仕事 男の仕事

## 男と女 女と男 すてきなパートナーシップを目指して



あなたは、「育児や介護などは女性だけに任せておけばいい」なんて思っていないませんか。

一方、最近では、今まで「男の職場」と呼ばれていた業界に進出して、頑張っている女性もふえています。しよせん世の中は男と女だけ。互いに認め合い、助け合いながら伸びやかに生きていく。そんなすばらしい関係を持ちたいものです。今回は、すてきなパートナーシップを目指して、さまざまな分野で活躍している皆さんを紹介します。

働くお母さんが大好き！

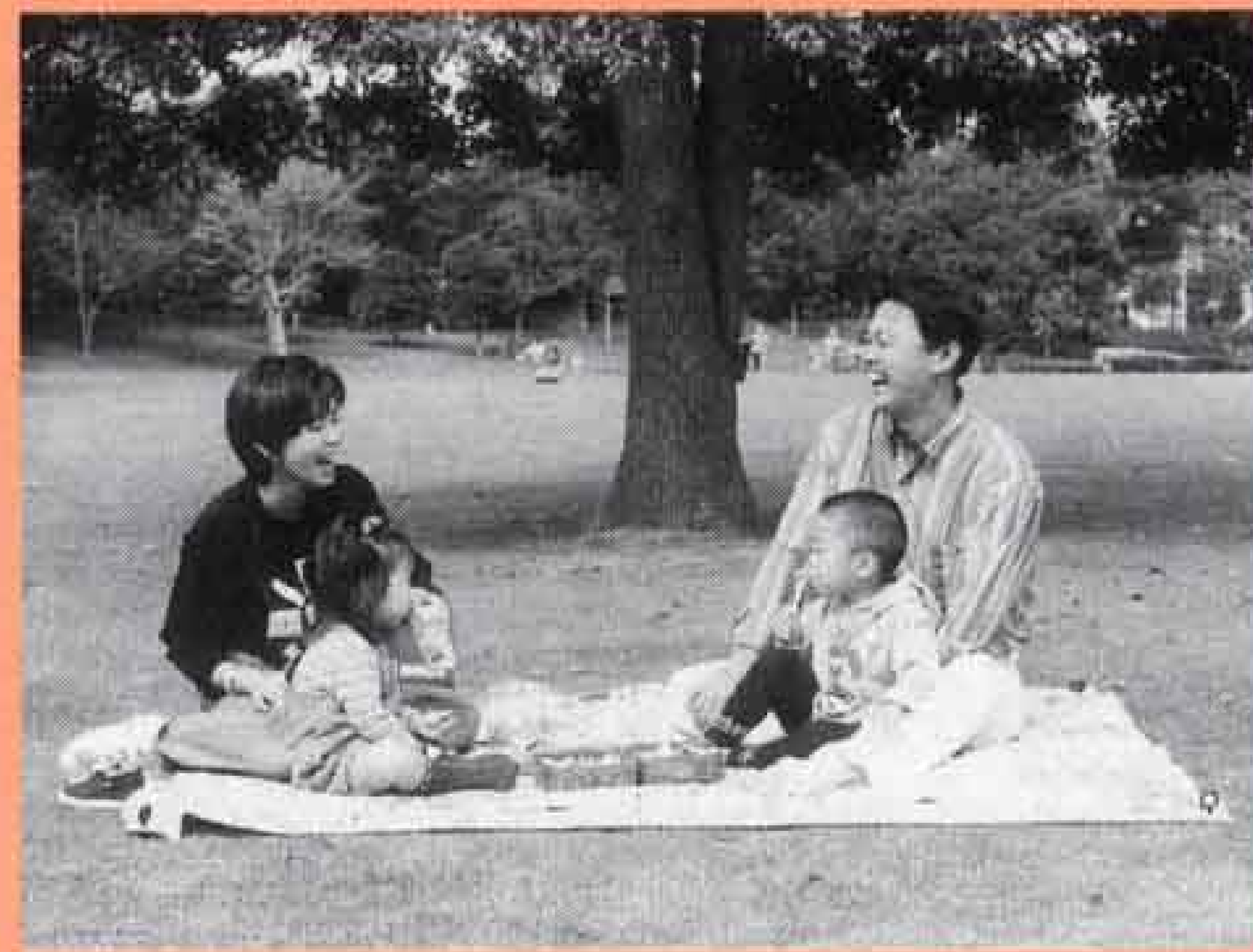


右から渡辺知実ちゃん(七歳)、裕太ちゃん(五歳)、正義さん(会社員)、拓弥ちゃん(三歳)、明子さん(看護婦)、(江尾)「結婚するまで、看護婦の勤務形態がこれほど不規則とは知りませんでした。妻が夜勤などの場合、私が生徒たちの面倒を見ていますが、自分の時間や仕事を犠牲にしなければならぬこともあるし、さすがに気の長い私でもストレスがたまりますね」と正義さん。しかし、「女性が仕事を持つことには賛成です。女性も生き生きと働いている方がいつまでも若くいられるのでは」と理解を示します。





今の社会 仕事と言っても いろいろ。  
 それなのに  
 「この仕事は男の仕事。あれは女の仕事」  
 なんて 決めつけている人が  
 まだまだ 多いんだよね。  
 男と女が お互いを認め合い 助け合っていく社会。  
 早く そんな社会にならないかな。



**市内でただ一人の保父さん**  
 「保育は女性の仕事と思われがちなので、よく『なぜ、この仕事を選んだの?』と聞かれます。だけど、特別な理由はありません。ただ子供が好きだけなんですよ」と笑顔を見せる高橋さんは、市内で唯一の保父さん。高校生のころから、養護施設でのボランティア活動などを通して子供たちと接してきました。「三年生になり、進路を決める時期になっても、漠然と大学へ進学しようなどとは思いませんでした。自分が本当にやりたい道へ進もうと考えました。そして選んだ結論が、子供たちを相手にする仕事でした」ところが、保育園への就職活動は、どこも男性の受け入れ体制が整っていないというので、とても苦労したそうです。「この保育園では『男だから』という特別扱いはありません。もちろん、力仕事を頼まれることはありますけど…。子供と接する中で、女性特有の細やかさを時々うらやましく思います。一時期子供に対する言葉遣いなどをまねしようともしましたが、やっぱり変なんですよね。最近では、無理せず自然体で『友達みたい』に接するようになりました。保父は、自分の夢だった仕事です。今では、毎日が充実して楽しいです」  
 きょうも高橋さんは、子供たちと一緒に園庭を走り回っています。

高橋直輝さん(愛生保育園)

中澤洋子さん(大宮塗装工業株)

## 私たちの仕事に 男女の区別はありません



**色彩感覚を塗装の世界で生かす**  
 中澤さんの家系は、塗装業を始めた祖父まで、十代にわたり男が生まれなかつた女系家族。そして、祖父以後も女だけ中澤さんは、誕生と同時に祖父から「跡取り」としての義務を背負わされたのです。「当然、反発しましたよ。だって塗装業といえば、男ばっかりの汚れる仕事、というイメージですものね。」  
 だから、小さいころから美術が好きだった私は、美術短大を卒業した後も家業を継がず、自分で絵画教室を開きました。特に、私は色彩が好きでした。家にはいろいろな塗料があつて、いつも身の回りに「色」が満ちあふれていたからかも…。そんな中澤さんが家業を継ぐこととなつたきっかけは、祖父の死でした。寝ているような安らかな顔を見て、「反発せずに、もっと話しておけばよかった」と後悔の念に駆られ、家業を手伝い始めたのです。しかし、最初は職人や現場、塗装材料など、わからないことばかりでした。「私が現場へ行っても、女性というだけで職人さんたちは全く相手にしてくれませんでした。一人前として見られるまでに十年かかりましたよ。」  
 でも、今思えば、この仕事は自分に向いている仕事かも…。塗装業は「汚い部分」をきれいにする仕事。これからも得意な色彩感覚を生かしていきたいですね。



女性の仕事  
男の仕事

今こそ 女性自身や  
周囲の環境が変わるとき  
そして  
それを変えていくのも  
私たち自身です



’96 女と男のフォーラム実行委員長

佐藤文子さん (平垣)

佐藤さんは、日ごろどのような仕事をしているのですか？

私は、静岡県中部就業女性センターに相談員として勤めています、これから働きたいという女性、あるいは既に働いている女性からの就業相談を受けています。

女性を取り巻く法律や制度の問題、進路の選択や適性、資格や生活上の身近な知識習得、職場での人間関係など、さまざまな内容の相談に応じていると、さながら社会の縮図の中心にいるような感じがします。応対に苦勞することもありますが、毎日が勉強だと思っ

て頑張っています。

相談員になつたいきさつは？  
私は十二年前「静岡県家庭婦人海外派遣団」に参加しました。その報告書をまとめたり、県から依頼されて県内で活躍中の女性を取

材したりしているうちに、県の職員の人から「相談員になってみませんか」と誘われました。...

長年ガールスカウトのリーダー(指導者)を務め、カウンセリングの勉強をしたこともありましたが、会社員だったころの経験も何か役立つかなと思って引き受けました。最初は、昭和六十二年に沼津市にある東部県行政センターの消費生活相談員になり、平成四年から静岡市にある県中部就業女性センターに勤めています。

相談員をしていて感じることは？

最近の傾向として、会社内のいじめやセクハラ、上司と合わない、など人間関係に関する相談内容が多くなっています。これは、女性の就業環境や周囲からの支援がまだまだ未熟であるためではないでしょうか。

しかし、中には働いている女性の側に問題がある場合もあります。例えば、プロ意識の欠如からくるものです。仕事への責任を軽く考えていたり、報告や連絡、相談などをせずに自分だけで判断して、事態を悪化させてしまったり...。女性が「自立する」という意味の履き違えがなければいいのですが。

次に「女と男のフォーラム」とのかかわりについて教えてください。私が相談員になったのは九年前。それまで行政には、保守的なイメージしかありませんでしたが、福祉制度やイベント・講座など、さまざまな分野での施策があること

を知り、もっと自分が住んでいるまちに関心を持つとう、もっと富士市のことを知ろう、と思ったんです。そして、まずは自分の仕事に関係するところからと思い、「女と男のフォーラム」に参加しました。実行委員になったのは昨年からのので、委員長とはいえ何をすればいいのか...。皆さんに助けられながらやっています。

最後に ことしの「女と男のフォーラム」のPRをお願いします。

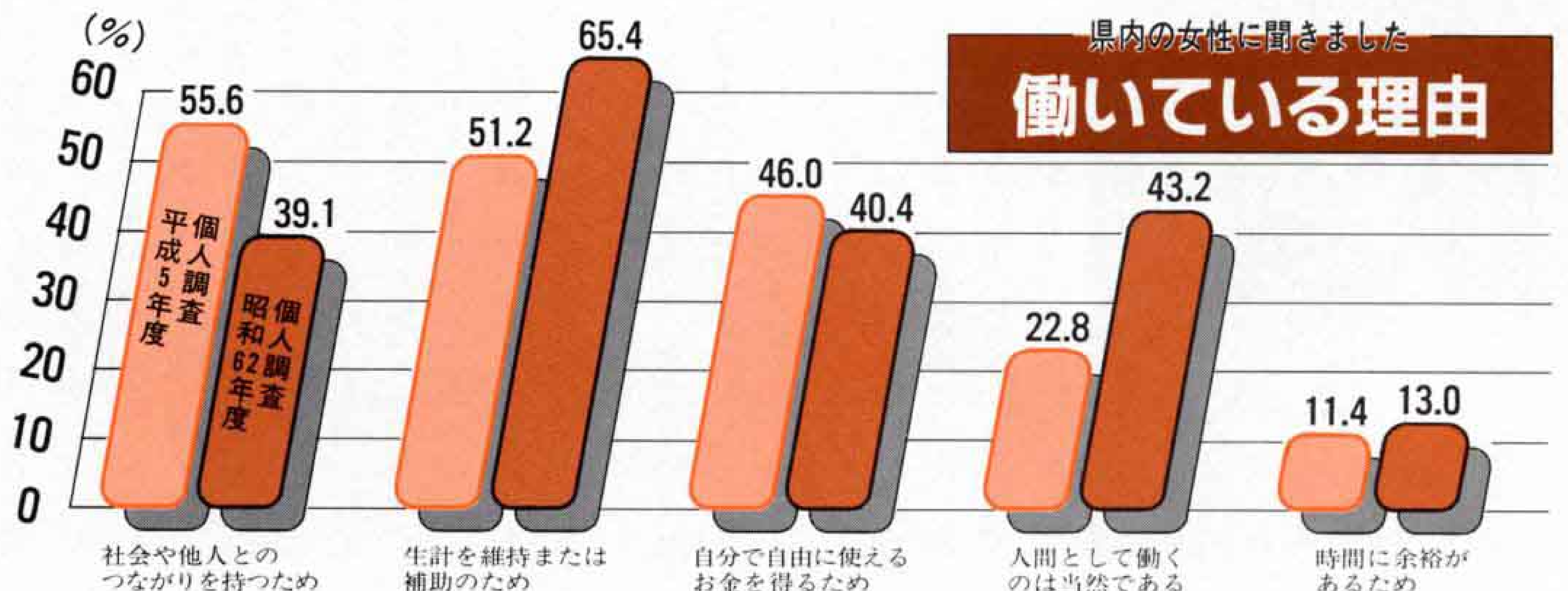
ことしのフォーラムは、「変わるとき/変わらなくっちゃ!!」をテーマとした、演劇やトークを予定しています。特に演劇は、脚本を実行委員みずからがつくり、出演を市民劇団「不二芸」にお願いしました。絶対すばらしいものになると思いますよ。

ことしのテーマにあるように、今こそ女性自身や周囲の環境が変わるときです。そして、それを変えていくのは、私たち自身なのです。フォーラムの開催日は、七月六日。彦星と織姫が年に一度再会する七夕の前日です。ぜひ、多くの男女に会場していただきたいですね。

今や「男は仕事、女は家庭」なんて時代ではありません。けれど、社会から女性に対する差別や偏見が完全になくなつたとは、まだまだ言えないようです。

また、男性が育児や介護に専念しようとしても、まだ、いくつかの障壁があるのでないでしょうか。

男女がすてきなパートナーシップを保つ社会。私たちが自身が意識を変え、築き上げていきたいものです。





ライフスタイル

生活向上談義

'96 富士 <sup>ひと</sup>女と男の<sup>ひと</sup>FORUM

変わるとき！変わらなくっちゃ！！

参加者を募集します！！

気軽にご参加ください

7月6日(土) 12:45~15:30

保健女性センター



△'96 女と男のフォーラム実行委員会  
公募で集まった実行委員16人が、フォーラムのテーマや内容などについて、活発に議論を交わしています

- 12:15~ 受け付け開始
- 12:45~ オープニング
- 13:00~ 演劇「変わるとき！変わらなくっちゃ！！」

平凡な専業主婦だった主人公の女性・順子。一人の女性が、育児や介護の問題を通して「男の生き方、女の生き方」について見つめ直し、成長していくドラマです。

脚本は、フォーラム実行委員みずからが作りしました。そして、出演は市民劇団「不二芸」の皆さんです。手づくりの演劇をごらんください。

- 13:35~ トーク&トーク
  - 豊田正義さん(メンズリブ東京・代表)
  - 中村光代さん(浜松女性ビジネス交流会事務局・代表)
 二人をゲストに招き、「変わるとき！変わらなくっちゃ！！」をテーマに、男女関係のあり方について繰り広げられるトークショーです。

- 15:00~ 交流タイム  
お茶を飲みながら、参加者同士で意見交換に花を咲かせましょう。

定員 150人  
申し込み 7月1日までに参加費を持参し、保健女性センターへ(電話も可)

※託児(要予約)、手話通訳あります  
主催 <sup>ひと</sup>女と男の<sup>ひと</sup>フォーラム実行委員会



△昨年は、「メディア・ウォッチング」「ワーキング ウーマン ナウ」という二つの分科会や、市議会議員との討論会などが行われました。

編集ボランティア大募集

<sup>ひと</sup>女と男の<sup>ひと</sup>情報誌

きらり

情報誌「きらり」では、キラリ光る内容やキラリ輝く人の情報を、どんどん発信しています。情報誌の編集にかかわってみたい人、企画から取材、イラストや原稿作成などを、あなたにお任せします。多くの人とのネットワークがある人は、特に大歓迎。まず、あなたからキラリ！情報発信してみませんか。

募集人数 5人  
※年齢、性別、プロ・アマ問いません

申し込み 5月31日までに直接または電話で保健女性センター女性施策推進室へ



☎64-8995

問い合わせ

保健女性センター 女性施策推進室  
☎64-8995